

3 千葉市学校教育推進計画区民説明会の実施概要

1 目 的

計画の策定について市民に周知するとともに、広く市民から意見や要望を求め計画に反映する。

2 日時・会場・参加者数

区	開 催 日	時 間	会 場	参加者数
緑区	6 月 29 日 (日)	10 : 00～12:00	鎌取コミュニティセンター	約 80 名
美浜区	7 月 6 日 (日)	10 : 00～12:00	高洲コミュニティセンター	約 80 名
若葉区	7 月 12 日 (土)	10 : 00～12:00	都賀コミュニティセンター	約 70 名
稲毛区	7 月 13 日 (日)	10 : 00～12:00	穴川コミュニティセンター	約 80 名
中央区	7 月 26 日 (土)	10 : 00～12:00	市総合保健医療センター	約 90 名
花見川区	7 月 27 日 (日)	10 : 00～12:00	花島コミュニティセンター	約 100 名

3 出席者 懇話会：明石 要一（会長）

市教委：教育総務部長（策定会長）、学校教育部長（策定副会長）、関係各課長 他
事務局：企画課担当職員

4 内 容

- (1) 教育委員会あいさつ
- (2) 千葉市の現況及び千葉市学校教育推進計画のあり方（中間報告）の説明 [20 分]（企画課）
- (3) 講演 [30 分]
講師：明石 要一氏（懇話会会長・千葉大学教授）
演題「夢と思いやりの心を持ち、チャレンジする子どもを育てる」
- (4) 意見・提案 [50 分]（司会：明石氏）

5 各会場で出された意見等の概要

【計画全体に関して】

- 「思いやりの心」も大切だが、「チャレンジする」を強調してはどうか。国際化に向けて、自分の主張をしっかりとと言えるようになってほしい。
- 「学校教育」という閉ざされたカテゴリーでは限界がある。教育委員会の中だけでなく、もう少し広い枠組みでとらえていくことも必要。
- 計画が絵にかいた餅とならぬよう、「地域」「学校」「行政」それぞれが、何をしたらいいのかを明確にし、実行できるようにしてほしい。
- 言っていることはもったもだと思うが、予算が伴っていない面があるのではないか。厳しい状況ではあると思うが、予算を増やす努力をし、有効に活用してほしい。

【学校で行う教育活動に関して】

- 自ら考える力の育成に図書館の果たす役割は大きいが、学校図書の充足度等においてはまだ十分でない面もある。学校図書館の充実が必要。
- 学校の図書館指導員については、より多くの日数の配置をお願いしたい。
- 学習の進んでいる子や遅れがちな子への対応をしっかりと行っていないと、公教育への不信が高まってしまう。

- 学校教育推進計画の中に「人権意識」を育てていくための施策を取り入れてほしい。
- 「お年寄りを大切にする」等、モラルを具体的なことを通して教えていくことが大切。
- ぜひ国際化に対応できる子ども達を育ててほしい。

【学校の教員に関して】

- 問題行動を起こす児童・生徒に対して「とことん面倒をみる」ためには、情熱と愛情ある教員集団をいかに育成していくかにかかっているのではないかな。
- 学校教育について考えると、多くの問題が先生方の肩にかかっている。先生方に、実体験に基づいた研修を積んでいただきたい。
- 学校の先生方は本当に忙しそうである。それをサポートする体制があるとよい。
- ボランティアの募集やセーフティーウォッチャーの事務局等は、学校の教員にさせない方がよい。学校の先生には、子どもに向き合い、子どもの教育に専念してほしい。
- 学校長は1～2年で異動するのではなく、もっと腰を据えて学校を経営していけるようにし、地域との連携を強化していけるとよい。

【放課後の子どもの居場所・遊びに関して】

- 放課後子ども教室は、もっとPRすると協力者が増えるのではないかな。今は週1時間だが、できれば毎日行っていきたい。
- 放課後子ども教室については、何のために行っているのかが現場に伝わっていない面もあるのではないかな。また、ボランティアで来ていただける方があまりいないという問題がある。
- 計画の中では、「放課後の居場所づくり」が「家庭・地域」の中に入っているが、行政も積極的に関わってほしい。学校の校庭等をもっと有効に活用できるとよいのではないかな。
- 7つの視点の中に「学びの保証」とあるが、「遊びの保証」が必要。親は、「学び」についてはすぐに実行に移すが、「遊び」については実行に移さないため、行政等の働きかけが必要。
- 子どもの遊びは大切。しかし、サッカーや野球をやらせたくても行う場所がない。そうした整備をしてもらいたい。また、雨の日の遊び場もない状況である。

【家庭・地域の教育力に関して】

- 子育てに関しては、親としての力が大切。「子どもの前では夫婦喧嘩をしない」「父親は少しのことでは動揺しない」といったことを学んでいく必要がある。
- 教育を支える「家庭・地域の教育」にも力を入れ、親が学んでいく機会があるとよい。

【地域・社会の体制の整備に関して】

- 少子化により、学校の教員の数も減り、部活も限られてしまう。子ども達にはいろいろなことに挑戦してほしいが、それができる状況ではない。地域で何かサポートできるとよい。
- 「女性が安心して子どもが産める・育てられる」というような社会をつくっていくことが必要。学校も、「授業が終わった後でも公的に面倒をみていく」といったことが大切ではないかな。
- 小学生までは地域で支えることも可能だが、中学生になると部活等の盛んな学校とそうでない学校との差が大きく影響してくる。施設等の環境については、各学校区で差のないようにしてほしい。
- 放課後子ども教室に関わっているが、地域の協力を得るのが難しい。地域の中に、「学校の助けにもなるし、参加者同士も得るものがある」という体制を作っていただけるとありがたい。
- 学校と家庭の連携、学校と行政の連携、学校と地域の連携について、具体的な施策がでてくることに期待したい。